

平成17年(2005年) 1月20日 (第3種郵便物認可)

# ANAと環境教室開校

## 森と海のつながり目指す

本学フィールド科学教育研究センターは先月二十一日、全日本空輸株式会社(ANA)が進める「私の青空・森づくり活動」に協力し、環境再生活動や環境教育をともに推進すること

に合意した。フィールド研が提唱し、現在進めている「森里海連環学」を社会的に広める取り組みの一環であり、三月ごろから具体的な活動を始めるという。フィールド研は全国に十

か所の現地施設をもっており、その中の一つ、北海道の標茶区では、以前から本の教員がANAの森づくりの相談に乗ったり、和歌山研究林の教員が環境教室に講師として参加してい

た。今後さらに効果的な取り組みを森・里・海に広げるため、組織全体として協力し合う話を持ち上がり、調印に至った。

具体的な内容としては、「フィールド研が、全国各地のANA環境教室で『京都大学フィールドセミナー(青空塾)』を開講する」「ANAが、地上交通機関(バスなど)を無償提供する」「共同でエコツアー

『フィールドツアー(仮称)』を企画・実施する」など。

また、和歌山県古座川流域をフィールドに、長期的な森里海連環研究、学生向けの体験ゼミ、地域連携などを総合的に行うことも予定している。ダムによる水質の変化が、アユの生態や海の生物に与える影響を調査するという。

育研究センター長の話 河口域で暮らす漁師は、海の荒廃は森に原因があることを直感で悟り、山で植林を行ってきた。今までの森は森、海は海、と縦割りの教育研究ではなく、これからつながりを軸にした展開が重要である。今後は「森里海連環学」を、産官学の連携のもとに、学術的に高め、社会的に広めていきたい。

田中克・フィールド科学教